

## 文化財現地確認結果

### 【迎撰院の木食観正碑】

調査日 令和4年10月19日(水) 午後3時20分～午後4時00分

場所 越谷市宮本町2丁目54番地

調査者 板垣 時夫委員、加藤 幸一委員、高崎 光司委員、  
橋本 雄一郎委員、林 貴史委員、矢口 孝悦委員

事務局 山田副課長、橋本主幹、菟原主幹、栗原主任、村田主事

立会人 迎撰院住職 塚田 有祥

### 主な意見

- 指定するにあたって指定区分を検討するべき
- 指定名称についても検討すべき。東京都江東区は「弘法大師供養塔 木食観正書」という名称で区登録文化財(有形民俗文化財)として登録している
- 歴史資料とするには文書などから検証することが必要となるが、とても難しい
- いろんな村の人名が刻まれているが、村の中心者なのか、信仰上の個人の付き合いなのかがなかなかわからない。
- 例えば世話人に「松伏村 五右衛門」とあるが、松伏村なら石川民部家が中心者だろうが、五右衛門とは名乗らない。
- 市内の石造物の中で木食観正碑のような広域での信仰を表す石碑はあるのか？
  - ➔林泉寺(浄土宗)の徳本行者の名号塔(文化 14 年:1817)や安国寺の中興宏善上人の地藏尊付き墓塔(明治25年)がある。
- 広域での信仰を表す石碑が文化財指定された例として、幸手市に「千日念仏廻向供養塔」(平成 29 年 5 月 1 日指定)がある。(※この石碑は北葛飾郡域の人たちによって、武士や農民、僧侶などの身分の垣根を超え、亡くなった先祖の追善供養と、自らの極楽往生を願って千日間の念仏供養を行い、その満願成就を記念して造立した供養塔)
- 石碑を見ると人名などが刻まれている部分については、向かって左側に「講中惣世話人中」とあるのでここが最後だろう。世話人は一括で書かれている。また裏面は仕上げの加工が異なるので、裏面で間違いないだろう。
- 「光明真言講」についてもあまり見ないので、良く調べたほうが良い。
- 石碑に刻まれている文字を確認するのに拓本を使うことが多いが、拓本では細かい傷なども拾ってしまうのでどこまで有効かはわからない。慎重に調べてほしい。
- 木食観正の書体を調べるには、他の木食観正に関する資料(石碑や掛け軸など)を数多く見る必要がある。